

令和6年度徳島県立図書館協議会 会議録

1 日時 令和6年9月6日(木) 午後3時～午後4時45分

2 場所 徳島県立図書館 集会室1

3 出席者

【委員】10名中8名出席

平井会長、中副会長、小寺委員、田村委員、橋村委員、余郷委員、杉山委員、鈴木委員

※欠席委員 元木委員、柏木委員

【図書館】

館長、副館長、館員9名

4 会議次第

(1) 開会

(2) 館長挨拶

(3) 委員自己紹介・職員紹介

(4) 議事

①令和5年度事業実績について

②令和6年度事業について

③「徳島県立図書館サービス向上目標(第4期)」の推進状況について

④その他

(5) 閉会

【議事①②③について、事務局からまとめて説明】

(委員) 県立図書館からご説明のあった、美波町の由岐小学校で電子図書館サービスのモデル校として取り組みを行うことになった。経緯は、小学校で電子図書館を利用したいという希望があった。探してみても、気軽に電子図書館を利用できない状態だった。個人で登録するなら可能だが、学校全体、授業で使うのはなかなかできなかった。一人一人で登録するのはハードルが高く、先生方も授業で使うのはどういう風にすればいいのか模索していらした。県立図書館に御相談したところ、こういう方法があると相談に乗って頂けた。由岐小学校の先生も直接お話が聞きたいということで、県立図書館からご説明を受け、生徒も先生もぜひやってみたいということにつながった。きっかけを作るのが大切だと感じた。運用し始めたら、こうやって授業に取り組みればいいのか、一番初めはどうやって取り入れたらよいか、電子図書館はまだ大人もあまりなじみがない。個人的には使っているが、授業や全体として使うのが、徳島県ではまだ小学校は特に少ないのかと思う。今回、先生方もかなり熱心に取り組まれている。他の学校でも使ってみてほしいという声を頂いている。図書館として地域と図書館、他の団体をつなげるのがこれからも大切な取り組みになっていくと思った。またこの取り組みを通じて、ほかの小中学校へひろがっていくきっかけになればと考えている。

(委員) 学校の教室で、画面を見るのか。

(委員) タブレットを1人1台持っているが、使い方を模索中。本を読んでもみようかということになったが、市の電子図書館だと市民でなければならぬなど制限があり、なかなか気軽にアクセスできない環境だった。全員がタブレットを持っているので、これを持って余すのではなく、朝読、授業の調べ学習で、こんな事典があるなど知るだけでも好奇心がわくきっかけになるのではないかと考えている。

(委員) 生徒が皆で同じ本を見られるか。

(事務局) 1つの教材を1クラス全員が(各自のタブレットで)同時に見ることはできない。先生のIDを使用し、スクリーンで映すことや、同じジャンルの違うコンテンツをそれぞれが見ることなどは可能。

(委員) これは、美波町の小学校か。

(事務局) そう。まずモデル実施ということで。前段として県立学校には令和2年度から全員にIDを配布済。市町村には行き渡っていなかったというところだが、今回美波町、特に由岐小学校さんから熱心な要望があったので、まずモデル的に始めてみようというところ。また、この事例を県内ほかの市町村から要望があれば広げていくことも可能。受け入れて頂くには、今回の由岐小学校のように熱心な先生がいらっしゃる、地元の図書館の熱心な取り組み、Wi-Fi環境等の条件があり、全ての市町村でというのはなかなか難しいが、一番ふさわしいと思われた由岐小学校からスタートさせていただいている。

(委員) 閲覧できる図書は、そんなにたくさんあるか。

(事務局) 約3500のコンテンツ数。主に参考資料が多く、読み物というのはあまりない状況で、使い方に先生の工夫が必要。先生の意欲がないと、なかなか活用に結びつかないところがある。コンテンツの例として資料を配布している。今後低年齢層のコンテンツを増やしていきたい。

(委員) 絵本などもあるか。

(事務局) まだ少ないが、絵本もある。増やしていきたいとは考えている。

(委員) 図鑑とか。

(事務局) 図鑑は多いが、対象年齢層がいろいろある。活用は先生次第の部分もある。今後はコンテンツを広げていきたいと考えている。

(委員) 先生が地域の図書館に「本を使いたい」と言ったということは、それだけ図書館が活用されている証拠だと思う。委員が普段から地域にしっかり働きかけていることに、本当に感心した。先生の興味関心が重要だという話だが、委員にお聞きしたいのは、学校図書館も関与しているのか。

(委員) 学校図書館にも図書館の本を月1回配本している。学校図書館を担当する先生と打ち合わせして、校長先生も使いたいということで。本を使うことや調べ学習に熱心なところ。

(委員) きっかけという話があったが、学校図書館を間に入れることもひとつの手段だろう。徳島県の教育委員会から依頼を受け、学校図書館サポーターの講師をしているが、毎年受講者が増えている。学校司書を養成したいという要望はあるが、さまざまな制約がある。現在、阿南などでは学校司書の配置が進んでいる。サポーターという名称だが、実質的には学校司書に近い役割を果たしている。しかし、まだ正規職員ではないという課題もある。サポーターは、調べ学習や子どもたちと先生の間に入って本を紹介するという専門的なスキルを持つ人材だ。さらに、電子図書館のツールなども、こうしたサポーターが普及させていくことが可能だろう。県立図書館の職員にも、ぜひサポーター講座に関わってもらえないだろうか。

(委員) ぜひ学校サポーターを取り入れられたら良いが、予算の関係などで実現していない。それを補佐する意味で、今は町立図書館の職員が学校図書館の兼務とまではなっていないが、つなぐ役割を担っている。学校図書館サポーター、職員は必要な存在だと思うし、できれば県内全域の小中学校にハードルは高いが、将来的にはそういうこともきちんと配置できるような環境になってほしいと思っている。

(委員) その一つのきっかけとして電子図書館の活用だと思う。他県では、電子図書館を学校の授業で活用している事例はあるか。

(事務局) 長野県では、県立図書館が核となって、全市町村で電子図書館を運営している。学校との連携も広がっていると聞く。

(委員) そういう先行事例があれば、モデルとして、徳島もできれば。

(事務局) 全部の市町村となると温度差があるが、意欲のあるところから横展開していければと考えている。

(委員) 4点整理してお願いしたい。年報からびっくりしたのは、婚活イベントで11名参加して4組がカップリング成立したというのが、確率が高くて驚いた。もっと宣伝したいと、一番感動した。2点目は、「図書委員が選ぶ旅する本」。この間図書館へ来たときに、展示を左から全部読んだ。どうしてみんな旅の本なのかと思っていたら、(入り口側の)右の最初にタイトルがあった。どうしてもっと良い本を選ばないのだろうと思っていたら、ちゃんとタイトルが決まっていたと感心した。ペンクラブでは、11月の県民文化祭で「読書のススメ」の講演会を行う。依岡会長が本を出しているので、「読書のススメ」の講演会、ゲストに今人気の三宅香帆さんを招いて講演会をする。それにあわせて展示をするが、その展示がここで行っているのと同じ「私がおススメの1冊」というのを500字で皆さんが書いて、それを展示するようにしている。先にこちらにあったので、やられたと思った。二番煎じのようになってしまいが、県を代表する執筆者の方10数名とペンクラブの会員で原稿を出して展示するようにしている。旅する本良かった。3点目は、まなびの森の講演会。7月の構大樹先生「宮沢賢治が目指したことと、実現したことー『注文の多い料理店』を読み直すー」に参加した。前々日に友人も申し込んだが、満員で断られた。

当日、欠席者もあったのか空席もあったので、惜しいことをしたと思った。余分を取っておいてくれたら、欠席が出てもちょうど良いのではないか。4点目は、p20「赤ちゃんと楽しむおはなし会」。1年間で81名、平均して毎月7名の参加者。こんなにすばらしい企画なのに、参加者が少ないのはもったいない。どうしてかと言うと、自分の孫のことを言うのはあまり良くないと思うが、小学校2年生になった4月から7月まで読書記録を持って帰って来て、5か月で148冊読んでいた。月に30冊は読んでいる。『〇〇のひみつ』などの漫画や、「ハリー・ポッター（シリーズ）」の5センチぐらいの分厚い本も5冊読んでいる。本が好きで、20分の休み時間は図書館に必ず行くが、友達を誘っても誰も行ってくれないと言っていた。どうしてそんなに本の好きな子になったかという、出産して退院したその日から母親が読み聞かせを始めたのが影響していると思う。だから、「赤ちゃんと楽しむおはなし会」という企画の宣伝をもっと広げて、たくさんの方が赤ちゃんの時から本に親しむというのがどれだけ大事かというのを感じた。以上4点。

（事務局） 「赤ちゃんと楽しむおはなし会」は、先着5組10名にしている。最初はコロナの関係もあったが、助産師さんと話すためにあまり大人数だと相談しにくい、子どもさんが自由に動けるようにといったことから、人数を制限している。御意見を反映させて今後の人数も考えていきたいが、制限のためこの人数となっている。

（委員） 「わんこに読んで！わんこ読書会」も驚いた。広報は特別にしたか。誰でも参加できるか。

（事務局） 事前申し込みで、小学生を対象。それ以外要件はない。

（委員） 読書犬という犬がいるのもはじめて知った。

（事務局） 盲導犬を引退した犬など、色々なパターンがある。

（委員） 紹介していただいたいろんなイベントが面白く、参加者も多くてにぎわっていると感じた。以前は参加者があまり多くないというイメージがあったので、すごく県立図書館のイベントの数も多くなっているし、いろんな分野にわたって工夫していると驚いた。参加者も多いし、ずっと続けていただけると、県立図書館というものの本との結びつきも見える。宮西達也さん（「ティラノサウルスシリーズの絵本作家 宮西達也先生 in 文化の森」）は、文化の森のイベントでの共催か。博物館などせっかく近くにあるので、もっとこういった共催イベントがあっても良いと思う。素晴らしいと思う。

（委員） 資料2-3「(1) 子どもの本の充実」で英語、中国語、ベトナム語とあるが、(ベトナム語は)要望が出てきて購入ということになったのか。

（事務局） 要望があったわけではなく、県内の外国人登録者数が一番多いのがベトナム出身の方だったので、ニーズが高いだろうということで、実態に即して購入している。

（委員） 推し活イベントなど、本当にいいなと思った。図書館探検隊もすごく人気があると聞いた。来館者をどうやって増やすかは課題の一つである。図書館自体を今後滞在型としてリフォームする予定はあるのか。貸出図書館から1日過ごす場所になる図書館が全国的に増えてきている。石川県立図書館などはセンセーショナルである。1日いて読み聞かせをする親子もいれば、自由に調べ物をする中高生など、様々なニーズに備えている。そういったモデル事業のようなものがもしかしたら県内でも求められているのではないか。大人が利用する図書館として考えた場合、どのような未来像を考えているのか。

（事務局） 石川県立図書館は、先日もNHKの「ドキュメント72時間」で取り上げられていて、圧倒された。開館からまだ2年で、最新ということで、ああいった形が取り入れられたのかと思う。当館は平成2年の移転から34年になる。ハード的に、滞在型へということになると、座席を増やす、カフェスペ

ースを入れるなどにしてもなかなか難しい。未来像としても、やはり物理的な制約はあり、ソフト的にどういう工夫ができるのかということになる。滞在型への流れとしては、市町村レベルでも那須塩原市などの事例があるので、参考に少しでも取り入れられる部分があれば、工夫はして参りたい。また好事例があれば委員からも教えていただきたい。

(委員) 先ほど、委員から高校生の読書離れの話があった。ここでも何度か議論にはなっているが、御意見があればお願いしたい。

(委員) 携帯で漫画は読むが文章を読まない。参考書は見るけど、書籍は読まない。ほかの保護者と話していても同じ。読書離れは難しい。

(委員) 電子書籍が多少でも本を読むきっかけになれば。

(委員) ついこの間、徳島に赴任してきた印象で言うと、ショッピングモールのようなところの一角に本屋のようなスペースがあり、雑誌や新しい本は売っているが、自分に関心のない分野、自分がこんなことに興味を持っていたのかと新たに発見したり、本のほうからボタンを押されて気づいたりする、といった機会が少ないと感じる。たくさん本が並ぶ本屋さんや図書館を歩いて、いろんな本を眺めている内に気付く。そういう面白み、読書と出会う瞬間が大事だと思う。ショッピングモールの本屋さんにはなかなかそんな場面が少なく、ますます図書館の役割は大事だろうと思う。電子図書も含めて、たくさん本を並べ、いろんな興味を持たせる展示などを行っているのをうかがって、すばらしいと感心した次第。アナウンサーとして仕事をしてきて、読み聞かせをしたことがある。コロナの時は、我々もそれまでの色々な取り組みを閉鎖せざるを得なくなり、大変だったが、集まって声を出すことが再開され、たくさんの催しをなさっているのは良いことだと思う。先ほど委員も仰っていたが、声を出して読むのと目で追うこととの差、そこに生じるギャップに気付く面白さがある。声に出して読むと、思わぬ自分が見つかるなど、面白い発見があるので、そういう機会を提供されていることも素晴らしい。私も婚活イベントはすごいなと思った。この成功率の高さに驚いた。「推し本」という言葉の使い方もすごく新しい発想だと思った。本を通じて会話し、人とつながるということは、色々な場面で参考になりそう。私たちの仕事でも何かに使えそうで、勉強になった。図書館にもっと人が集まり、もっと滞在できる工夫がさらに求められるというのは仰る通り。皆様のご意見をなぞるような意見で申し訳ございませんが、改めてそういうことを感じた。

(委員) 爆弾発言をすれば、有名なカフェに入っただきいて、全てのフロアをカフェスペースにすると、滞在型になる。飲食自由。これは夢物語ではなく、安城市立図書館は、全館飲食自由、アクティブ防音(しゃべってもいい)、実際行ったらそんなにうるさい環境でもなかった。何を目的にするか。ここは県立図書館なので、資料保存が大切。安城市立のように、子育てに完全にシフトするところとは違うので。滞在ということだけにしぼれば、カフェが本館の中にあって、自由に飲食できるというのだったら、滞在時間は長くなる。おしゃれで素敵なカフェなら人が来るとは思った。

(委員) カフェは大学図書館でも一部広がっている。

(委員) 滞在型と申し上げたが、少し口を濁らせているのは、カフェを入れる際に非常に気を付けなければならぬ観点がいろいろあるためである。例えば、分類を崩してまでカフェを入れるという図書館が受けているが、そこは慎重にしなければならない。都市でも、TSUTAYA 書店などは、お金を払って滞在する書店が受け入れられている。書店は自由に回れるはずだが、わざわざ入場料を払って、そこで話をしたり仕事をしたりする空間を求めている。そこで警鐘を鳴らしたいのは、本はインテリアではないとい

うことである。様々なことを探りながら、どこを目指すのかを考えていかなければならない。徳島県は読書活動が非常に盛んで、老若男女ともに本好きであるにもかかわらず、書店の数は少ない。これをどう解決していくのかの頼みの綱が県立図書館であると思っている。書店の代わりであったり、コワーキングスペースの代わりであったりするなど、いろんな要素がある。県民みんなから支持され、行きたくなるような県立図書館を目指すべきである。今度の週末は家族みんなで県立図書館で過ごそうねというようなあり方で、居るだけで楽しくなるような、本を読みたくなるような空間、お父さんがちょっと会社の仕事ができるような場所を目指していただければと思う。

【議事④ その他】

(事務局) <大規模改修工事について事務局より説明>

(委員) そのほかに皆様方から何かあるか。

<特になし>

それでは、予定していた事項をこれにて終わらせていただく。長時間ありがとうございました。